

企画展にちなんで 吉野作造と 建築

吉野作造と建築との関係は、東京帝国大学の学生キリスト教青年会と大きな関わりをもっている。吉野作造と交流した建築家は二人いる。遠藤新と土浦亀城で、二人とも日本にも関わりの深い世界的建築家フランク・ロイド・ライトの弟子で、東京帝国大学のキリスト教青年会に所属していた。



伊豆畑毛の吉野の別荘（土浦亀城設計）

の日に遠藤新ら青年会の学生たちも面会に訪れており、八歳年下の土浦亀城も建築学科の先輩である遠藤に連れられてやって来た。その時期は明らかでないが、一九二一年（大正十）九月には吉野家の長女信と結婚しているからそれ以前であろう。信の回想によれば、伊豆畑毛温泉「学士村」に測量の手伝いに来ていた亀城と意気投合したのが最初とのことだ。吉野が知人たちと構想していた「理想郷」建

合、賛育会病院などを設立した。吉野は資金のやり繰りから理事長就任まで、陰に陽に事業を支えた。立役者となった藤田逸男、河田茂、星島二郎等と同世代で交友関係を結んでいた遠藤新は、キリスト教青年会の会館を始めこれらの事業に関する建築設計を行っている。遠藤はライトの愛弟子で帝国ホテルの主任助手を務め、生涯ライトを師として活動した。

一九二〇年（大正九）吉野は遠藤に自宅書斎の設計を頼んでいる。吉野の日記によれば一月九日に遠藤を訪れ、さらに二十二日帝国ホテル建築事務所到大工の鴨野石五郎とともに遠藤を訪れて「西洋間の設計の講釈」を聞いている。二月一日には食事をおごっているから、依頼することに決定したのだろう。八月二十四日に「書斎も段々出来上がりて気持よし」と、書斎の出来上がりに満足を表している。この書斎を吉野は気に入っていた。書斎の各所で撮影した写真三枚を組み合わせて葉書を作成し、知人への通信に使用したり、書斎で肖像写真を撮影しているからである。

設にも土裏が関わっていたことがわかる。結婚した土浦夫妻は二二年一月より翌年四月まで吉野家に同居した。この間伊豆畑毛温泉の吉野別荘から弟で商工官僚の吉野信次の自邸の設計まで、土浦は吉野家の建築に関わった。



遠藤新設計の書斎にて

二二年一〇月に完成した畑毛温泉の別荘について「土浦の熱心なる努力に依り甚だ気持「よく」出来る」と吉野は日記で喜びを記している。この別荘は平屋建てで和室と食堂兼居間からなり、外見はライトの影響を強く受けていた。

吉野自身が建築と多少なりとも関わったといえるのは作家有島武郎や経済学者森本厚吉らとおこした文化生活研究会においてだろう。研究会は財団法人文化普及会に発展、模範的住宅の実験的試みとしてお茶の水に文化アパートメントを建設した。これは森本が理想とする合理的で経済的かつ文化的な生活を体现するものであった。森本と吉野、そして土浦夫妻もこのアパートに住んだ。

吉野は同年五月、建築学会通常大会で講演を行っている。この時のテーマは「建築と文化生活」。しかし吉野は「石工組合の話」と題して、宗教的秘蔵結社フリーメイソンの紹介に終始した。結局吉野が建築について公に考えを述べることはなかった。しかし、キリスト教や血縁などを通じ、建築家たちと交流していた。

御厨貴氏講演会
記録集近々完成
吉野講座第三回講師
御厨 貴氏
「吉野作造と馬場恒香」
希望者に無料配布します。

（田沢 晴子）